

# 皆さんの疑問にお答えします！(2)



Q01 当局の魅力はどのようなところだと思いますか。



**A** 若手職員も主体的に業務に取り組めるところだと思います。当局の業務については、なにか決まった正解を出すというより、国民の皆さんにとってよりよい方向性とはなにか、ということ職員同士で意見交換する場が多く、自分が考えたアイデアが反映される機会もあるので、やりがいを感じられる職場だと思います。(平成 29 年度採用・佐々木さん)



**A** 様々な行政分野についてのジェネラリストになれるところだと思います。特定の行政分野に限らず、国土交通行政、農林水産行政、厚生労働行政など様々な行政分野の仕事内容に、評価監視業務や行政相談業務を通して触れることができるので、日々、新しい知識に触れることができます。そのため、いろいろな分野に関心がある人は、特におすすめの職場だと思います。(平成 28 年度採用・西村さん)



**A** 多岐に渡る行政分野に触れられることだと思います。評価監視と行政相談は、それぞれの調査テーマや相談内容に応じた行政分野の法制度や他省庁の業務内容等を学びながら業務に携わります。どれか一つではなく、様々な行政分野を見るのは楽しいですし、大学等でどのようなことを学んでいても、どのような資格を持っていても、その知識を生かすことができるのが当局の業務の魅力であると思っています。(平成 28 年度採用・丹波さん)



**A** 全都道府県に出先機関があるため、現場の声に耳を傾けやすいことが魅力であり、強みだと思います。また、行政相談も評価監視も幅広いテーマを扱っており、実際に現地調査等を行うことで、普段見ることのできない側面を垣間見ることができることも魅力の一つです。(平成 29 年度採用・松浦さん)

Q02 大変だった経験と、それをどう乗り越えたか教えてください。



A 「行政評価局調査」は毎回テーマが変わるため、テーマに関する制度の勉強が非常に大変です。調査の相手方はその道の「プロ」ですが、我々は「素人」なので、書籍やネット、班員との検討を重ねることで、短期集中で調査テーマの理解を深めています。(平成 28 年度採用・勝又さん)



A 採用 1 年目のときは分からないことばかりで、誰にどう質問すればいいかも気を遣い、それがストレスに感じることもありました。私の場合は、自分である程度考えても分からないときは、隣に座っている先輩職員が忙しくなさそうなタイミングを見計らって質問するようにしていました。質問することに対して、嫌な反応をされた経験は一切なく(いつでも聞いてねというスタンスの方が多いです。)、採用から 2 年目、3 年目…になり、分からないことはすぐ質問するようになりました。(平成 29 年度採用・佐々木さん)



A 評価監視業務では、調査設計段階ではつかみきれなかった課題等について、実際に調査をしながら必要な軌道修正をし、効果的な改善方を導き出していくことに難しさを感じます。一人で抱え込んでもいいことはなく、迷うときこそ早めに上司と相談しながら一つ一つ実際に現場が抱える課題や改善方策について整理していき、調査結果の取りまとめを行いました。(平成 29 年度採用・松浦さん)



A 大変だったと感じたことは、業務を通して関係機関などと接する中で、若手だろうと当局の一職員として対応が求められるという点です。「若手」や「初めて」という経験は、誰もが通る道だと思いますが、上司の方々が親身になって指導してくださるので、日々学びながら業務に従事できていると思います。(平成 31 年度採用・三瓶さん)

Q03 当局での働きやすさについて教えてください。



A ワークライフバランスを重視されている方が多く、上司から率先して、休暇を積極的に取得して下さるので、若手も休暇を取得しやすく、適度に休息を取りながら働くことができます。また、テレワークやフレックスタイムなども積極的に取り入れている方が多く、働き方もフレキシブルだと思います。(平成 29 年度採用・松浦さん)



A 当局では、上司の統括のもと、一人に業務負担が集中しないように配慮されたり、積極的な休暇の取得を促されたりなど、仕事と生活が両立できる環境が整っていると思います。(平成 31 年度採用・三瓶さん)



A 残業や仕事の忙しさはそれなりにありますが、風通しのよい職場で上司とも意見交換をしやすい雰囲気のため、比較的働きやすい職場だと思います。(平成 28 年度採用・西村さん)



A コロナ禍以前からテレワーク、フレックスタイム制が浸透しています。職場よりも自宅の方が効率的に業務を実施できると判断した場合は、テレワークを実施し、空いた時間を趣味や勉強に充てることでワークライフバランスを充実化させています。(平成 28 年度採用・勝又さん)

## Q04 入局前と後で何かギャップを感じたことはありますか？



**A** 業務がとても多岐にわたることに驚きました。業務の対象が行政課題全般なので、その都度、自分の分からないことを勉強しながら取り組みます。知識として蓄積していくことで、自分のアイディアの幅が広がりますし、内容によっては私生活にも参考になるような話もあり、面白いです。(平成 29 年度採用・佐々木さん)



**A** 「行政評価局調査」はテーマ毎に調査方法が違う点にギャップを感じました。決まった形式で調査するものと思っていましたが、実際はテーマに応じて調査方法を変えています。最初はどの職員も知識がないので有識者の意見、書籍などを頼りに制度を深掘りするため、調査の進め方に正解はなく、若手職員の意見も通りやすいです。(平成 28 年度採用・勝又さん)



**A** 私が入局前よりもギャップを感じたことは、執務室がきれいだった点です。  
役所の執務室というと、部屋に机がびっしり置かれ、机上には書類が積み重なり…という印象がありましたが、当局の執務室は、しっかりと整理整頓されており、気持ちの良い環境で仕事をすることができます。(平成 31 年度採用・三瓶さん)



**A** 私は現在採用 6 年目でこれまでに 2 回の転勤を経験しています。採用前は転勤をすることに対してマイナスなイメージがありましたが、新しい土地で新しい家での暮らしをすることも悪くないなと今では感じています。おいしいご飯屋さんや好きなパン屋さん探しをしたり、引っ越したら新しい家では少しインテリアをこだわろうかなと考えたり(結局はしてないのですが)するのも楽しいです。  
正直、引越のために荷物をまとめるのは毎回苦労しています。また、引越の時期は 3 月なので時期的にも業務量が多いこともあり、しんどいなと感じますが、なるべく早めに荷造りを始めようと思っています…(平成 28 年度採用・丹波さん)